

みどりの 女神が行く!



竹川 智世 (たけかわ ちせ)

「緑の募金」強調月間に合わせて 安倍総理と歓談

緑の募金の全国一斉強調月間をアピールするため、首相官邸を訪問し安倍総理に緑の羽根を着用していただきました。

歓談の中で、安倍総理は「私が小学生の頃は木造の校舎や椅子を当たり前に使っていて、木とふれあいながら育つたのは良かった。」と話されていました。私からは、「在学中の近畿大学についてお話させていただきました。かつての近畿大学の校舎には木造のものはほとんどなかったそうですが、近年作られた校舎では木造のものが積極的に選ばれています。実際、私が入学したときにはいくつもの校舎が木造になっており、私はもちろん友人たちもとても気持ちの良い大学だとのイメージを持っているようです。」

学校や憩いの場で木の温もりを感じられることは、とても素敵なことだと思います。きつと、木に親しみ、その魅力を知っているからこそ、木造の良さを感じとれるのかもしれない。だからこそ、若い人々には、もっともつと木に親しむ機会を増やして欲しいと思っています。

私はみどりの女神に選ばれた際、木でできた名刺入れと携帯ケースをいただきました。木の温かみを感じられ、使っていると色が変わってくるという木材ならではの楽しみがあります。そして、それらがどんな種類の木で、どこで作られたのか?と興味を持つことにつながっていきます。

3月に熊本に行った際には、名刺ケー



名刺ケースを作ってくださった「大工小屋」の甲斐さん

スを作ってくださいました。「大工小屋」の甲斐さんにお話を聞くことができました。甲斐さんは切り株に独特の色合いがあることを活かし、様々なものを作られています。山には間伐で放置された丸太や切り株などまだまだ使えるものが沢山あり、これらを活用できるようになれば、山に放置されるものも少なくなることでしょう。お話をきいて、私の名刺ケースは甲斐さんに救われた木材なんだと感じ、より大切に使用していきたいと感じました。

「緑の募金」を通して木の魅力に 気づいてもらいたい

「植える緑化から使う緑化」というスローガンが掲げられています。木製品を使うことがきっかけとなり、これまで余り興味を持てなかった人にもこの考え方が広がってきているようです。そのきっかけ作りをしているのが、緑の募金ではないでしょうか。



岐阜県でみどりの募金活動に参加しました

4月は岐阜県に行き、街頭募金活動をしてまいりました。そこでは、緑の少年団の子供達や、近隣の大学生の方々が元気な声で、日本のみどりのために募金活動を頑張っていました。緑の羽根一つひとつはとても小さいです。ですが、沢山の方々はその羽根を付けることによって生じる思いは、きつと大きなものになることでしょう。

まだまだ、生活に取り入れられている木製品は少なく、その魅力に気づいていない方々も多いと思います。友人に、木を伐って使うことの必要性について話すと驚かれます。木は使った方が良いということに気づいていないのです。ですが、新国立競技場が木造であることや、住友林業が発表した木造高層ビル建設構想、CLTなどの新しい技術開発など、関心を広げるきっかけが増えていることも確かです。木に触れてもらえるきっかけを、より多くつくることができるよう、私も頑張っていきたいと思えます!



首相官邸にて